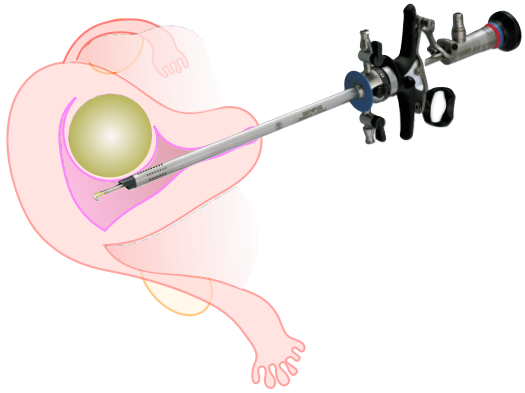
子宮鏡下手術について

手術の適応



- 子宮内腔の病変に対して行う手術です。
  - 子宮粘膜下筋腫
  - 子宮内膜ポリープ
  - 子宮形態異常（中隔子宮など）
  - 子宮内腔癒着症

手術の方法

- 手術時期は限られています。月経の終了間際～終了直後にしか手術できません。
- 月経を一時的に止めるため、術前に**GnRHアンタゴニスト**（月経後～手術まで１日１錠内服、保険適用で約2,000円/週）を投与します。これにより手術日程を調整しやすくなります。
- 水曜日か木曜日の午前中に入院し、午後に手術を行います。脊椎麻酔の場合は１泊２日入院、静脈麻酔の場合は日帰り入院です。
- 前処置として手術当日の午前中に、吸水性の拡張剤を用いて子宮頸管を広げます。
- 子宮腔を灌流液で拡張させ、子宮鏡観察下に子宮内腔の病変を切除します。手術時間は30分程度ですが、大きな筋腫では1時間以上かかる場合もあります。
- 子宮腔の癒着防止のため、一時的に**子宮内避妊器具（IUD）**を挿入します。IUDは保険適用外のため料金は自己負担となります。術後の診察で異常がなければ抜去しますが、避妊のため装着を継続したい場合は申し出てください。
- 月経を停止させていた場合は、子宮内膜の再生を促し、早めに月経を再開させるため術後に３週間、**ホルモン補充療法**を行います。
- 脊椎麻酔で行った場合の料金は約85,000円（保険適用）です。

手術の合併症

- **出血**：子宮筋腫や病変部を切除した際、出血することがあります。通常は子宮が自然に収縮して止血されますが、出血が多い場合は輸血を行う可能性があります。
- **子宮穿孔**：子宮壁が薄くなっている場合には子宮壁に穴があくことがあります。損傷の程度によっては腹腔鏡下手術が必要となる場合があります。
- **水中毒**：子宮内腔に注入した生理食塩水が血液中に流れ込むと、循環血液量が増して浮腫が生じたり、心臓や肺に負担がかかったりすることがあります。このような状態が疑われる場合には、手術を中断することがあります。
- **感染**：術後に子宮内感染や付属器炎を起こすことがあります。予防のために手術前後に抗生物質を投与します。

※ 病理組織検査で摘出腫瘤に悪性病変が見つかった場合は、高次医療施設で追加治療（手術や抗がん剤など）を行うことがあります。

未承認医療器具の使用

- 切除した筋腫を安全かつ速やかに搬出するために、特注した医療器具（把持鉗子）を用います。未承認の器具であることをご了承ください。